

仙台防災枠組に健康がもつ意義に関する論文が掲載されました（2015/6/25）

テーマ：仙台防災枠組と健康

URL: <http://link.springer.com/article/10.1007%2Fs13753-015-0050-9>

2015 年6月25日(木)に江川新一教授、佐々木宏之助教による国際共著論文「The Sendai Framework for Disaster Risk Reduction: Renewing the Global Commitment to People's Resilience, Health, and Well-being」が Int J Disaster Risk Sci 誌にオンライン掲載されました。

仙台で3月14-18日に開催された第3回国連防災世界会議で決議された仙台防災枠組には災害によって、人々の身体的・精神的・社会的な健康が大きく損なわれることが概念として初めて盛り込まれました。国連が防災に対して、気候変動や持続可能な開発ゴールと不可分なものとして新しい枠組みを形成するまでに、これまで取り組んできた歴史的な経緯や、兵庫行動枠組(HFA)から Post-HFA として仙台防災枠組にどのようにして保健医療の立場からさまざまな提言がなされてきたか、わが国の災害医療の取り組みが先進的なものでありながらも、東日本大震災においては災害発生から4年を過ぎる現在においても身体的・精神的・社会的な健康への被害がなお課題となっていること、保健医療セクターが他のセクターと協調・協働することの大切さなどを文献、資料などからレビューした論文です。

災害科学国際研究所が発足して2年後の2014年5月にワシントンで「災害時の保健医療に関する国際シンポジウム：兵庫行動枠組の改訂にむけて」を開催できたことが時宜を得ており、かつ、その後もバンコクでのアジア防災閣僚会議、ダボスでの国際災害リスク会議、東北大学知のフォーラム、国際災害リスク東京会議などで発信した成果ともいえます。これからも仙台防災枠組についてアウトリーチ活動を続けていきます。

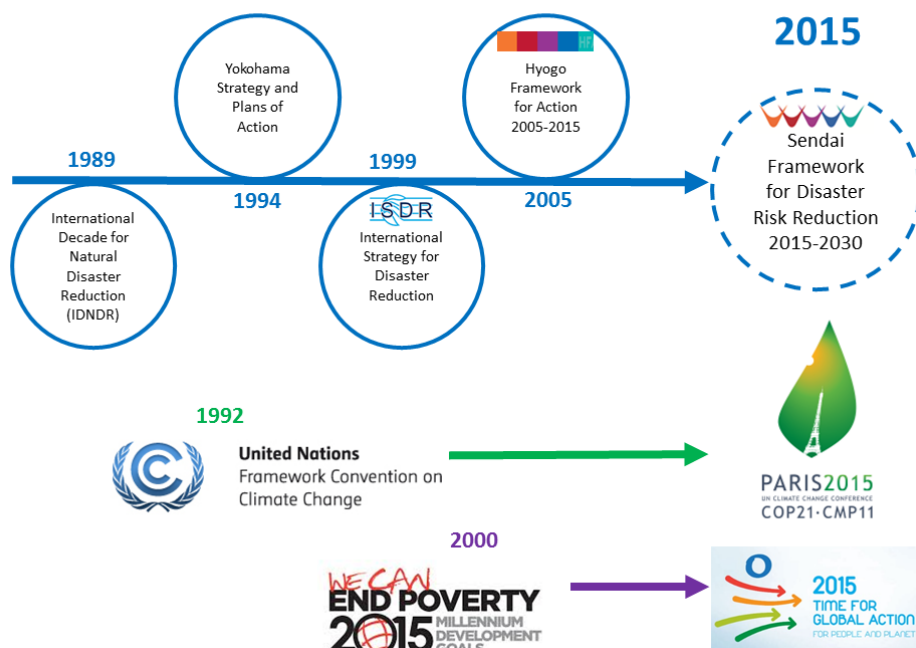


図1 25年間の国連防災の取り組み

文責：江川新一（災害医学研究部門）